

第 13 回微量 P C B 廃棄物処理事業に係る地域環境委員会議事要旨

1. 日 時

平成 29 年 2 月 7 日（火） 15:30～16:30

2. 場 所

ホテルルートイン東京 東陽町 芙蓉の間

3. 出席者

【委 員】 浦野委員長、竹内副委員長、綾部委員、榎本委員、風祭委員、
木下委員、小安委員、関戸委員、細田委員、前川委員（50 音順）

【事務局】 東京電力フュエル&パワー(株) 関口
東京臨海リサイクルパワー(株) 影山、菅原、堂元

【傍聴者】 なし

4. 議 事

微量 P C B 汚染絶縁油の処理状況、環境モニタリング結果、安全対策の実施状況について報告・説明した。微量 P C B 汚染絶縁油処理については、問題無く処理が進められている事をご確認頂いた。安全対策の実施状況については、災害の未然防止策を的確に実施して欲しい旨、委員の皆様よりご意見を頂いた。

主な質疑、意見は以下の通り。（「○」：委員、「□」：事務局）

(1) 微量 P C B 汚染絶縁油の処理状況について

○都内の微量 P C B 状況は、現在どのようになっているか。

○都内の対象機器は約 2 万 3 千台で、未届分についてもさらに調査を進めているところである。機器に低濃度 P C B が含まれているかどうかの判別には、絶縁油の濃度分析が必要であり、特に封じ切り機器のコンデンサーは、濃度測定を実施していない事業所が多数ある。低濃度についても高濃度同様に法整備が必要であると考えている。

○TRPにおいては、東京電力分以外の処理量を増やせるよう取組んでほしい。

□TRPでは、微量 P C B 汚染絶縁油のみの処理であるため、東電分以外のお客ニーズにお応えできていない状況にある。これらにも対応できる方策を、東京都、江東区とご相談しながら進めていきたい。

(2) 環境モニタリング状況について

- ばいじんのダイオキシン濃度が従来と比較し高めであるが、要因は特定できているか。
- 運転管理値（温度、排ガスなど）については、問題ないことを確認している。今回のデータ判明直後のサンプル、および直近（平成 29 年 1 月測定）サンプルの速報値では、従来と同レベルであった。今後も注意深く監視していきたい。

(3) 安全対策（災害発生）について

- 今回の災害は請負災害ではあるが、発注者として対策を実施していくのか。
- 安全な作業環境設定は発注者の役割であり、今後も当社が主体となって対策を実施してまいりたい。
- 作業前ミーティングは従前より実施していたと思うが、今回の対策で何が変わったのか。
- 災害前は請負者が提出する作業予定書の内容が簡略であったため、これをより詳細に記載することで、作業環境設定を関係者間で確認しあえる仕組みに整備した。
- 人的な対策も必要だが、必ず見落としがあるので、物理的な対策（クレーン動作時の回転灯点灯・ベル鳴動する等）を取り入れて欲しい。
- 検討している設備対策も資料で説明する方がよい。
- 災害状況をより分かりやすくするため、資料には写真や図を用いるなど工夫して欲しい。

(4) その他

- 次回の委員会開催については、平成 29 年 7 月下旬又は 8 月上旬頃を予定している。

以 上